

浜田林業部トピックス(2月号)

TOPICS 1

循環型林業の先進事例から学ぶ研修会

2月27日(火)～28日(水)、江の川下流流域林業活性化センターと高津川流域林業活性化センターなどが共催し、両流域の森林組合、林業事業体など18名が参加して、循環型林業の先進地である大分県佐伯市等を訪れ、林業における事業量確保や担い手対策など、様々な取り組みを研修しました。

【佐伯広域森林組合】

27日は大分県佐伯市の佐伯広域森林組合を視察し、佐伯型循環林業の概要について説明を受けるとともに、シカ被害対策を行っている再造林地を見学しました。

参加者からは「苗木生産、造林、素材生産、製材までを組合が中心となって行う体制を構築し、再造林を徹底して行っている」、「請負作業班で1千万円を超える年収を得ている人がおり、高収入が担い手確保や事業拡大につながる好循環を生んでいる」、「事業量を安定的に確保して仕事を切らさず、業務マニュアルを整備して新規参入を容易にすることで、就業者確保につなげている」などの感想がありました。

【(有)うすき林業】

28日は大分県豊後大野市にある(有)うすき林業の太郎林(現在60年生程度で、100～120年程度の長伐期択伐施業を目指す林)を見学し、多間伐施業や同社で行われている担い手対策について説明を受けました。

参加者からは「択伐施業ながら10㎡/人日の高い生産性を実現し、様々な販路を開拓することで、もうかる林業を実現している」、「週休2日制の導入、求人サイトの活用、インターン(就業体験)の実施、入社後の安全教育の徹底などにより、若者の就業や定着が図られている」などの感想がありました。

今回の研修会では、九州地方の先進事例を研修しましたが、本事例を参考にしながら県西部地域の特色を生かした循環型林業の確立に向けて取り組みを進めてまいります。



写真1 佐伯広域森林組合の再造林地
(再造林地全体はシカ被害防止ネットに囲まれている。
スギの葉色が茶色なのは、冬季に紅葉する系統のため)



写真2 (有)うすき林業の太郎林
(1963年～1967年に植栽。既に7回
程度間伐を繰り返している)

浜田林業部トピックス(2月号)

TOPICS 2

JAS認証取得に向けた取組について

令和6年1月22日(月)に浜田市の浦田木材株式会社で人工乾燥の現地指導を行いました。

浦田木材株式会社では、令和3年度に木材の人工乾燥機を導入し、人工乾燥したスギ柱・間柱材の出荷をスタートしました。

公共建築を中心にJAS材の需要が高まっていることから、既に取得している目視等級区分(※1)での構造用製材のJAS認証に加え、新たに人工乾燥処理構造用製材(※2)のJAS認証の取得を目指すこととしています。

令和6年2月からは、JAS認証の申請に必要な寸法や含水率等の製品データを取得するため、サンプルとなる人工乾燥材の製造に取り掛かっています。

今回の現地指導では、人工乾燥機への材の搬入前に栈積みの状況や乾燥スケジュール等の確認を行い、適切な作業が行われるよう指導を行いました。

今後は令和6年3月から6月にかけて製品データを収集・整理し、令和6年度中にJAS認証を申請・取得予定です。

JAS認証の取得により、付加価値の高い製品の出荷拡大が図られることを期待しています。



JASとは？

正式名称を日本農林規格といい、農林水産業・関連産業の健全な発展と一般消費者の利益の保護に寄与することを目的として、生産物の種類ごとに一定の基準を設け、品質の統一化を図っています。

(※1) 目視等級区分構造用製材とは

構造用製材は主に建築物の構造耐力上主要な部分(主に柱や梁、根太、束、桁、母屋など)に使用する針葉樹の製材を指す

この構造用製材のうち、目視等級区分とは、寸法計測後に目視で材面の節や割れ等の欠点チェックを行い、品質の等級区分を行うもの

(※2) 人工乾燥処理構造用製材(目視等級区分)とは

上記の目視等級区分構造用製材のうち、人工乾燥機による乾燥を行ったものについて、寸法・欠点チェックに加えて含水率計での測定を行い、品質の等級区分を行うもの